

Rotary



# 宮崎南週報



## 奉仕の心を行動に

宮崎南ロータリークラブ  
会長 千葉百合子

### 第1875回例会

2016.5.23

会長／千葉百合子 幹事／山崎栄一郎  
副会長／丸山一郎 会報／戸高勝利  
例会場／宮崎観光ホテル  
ソング／それでこそロータリー  
ロータリーの目的



オブザーバー

長澤好太郎様

### 会長挨拶

丸山一郎副会長



千葉会長は指宿地区協議会往復の強行軍で体調を崩されたようです。あのアコーデオンの伴奏がないと「南の集い」も調子が出ません。一日も早い回復を祈っています。今日は新入会員候補の長澤好太郎さんがオブザーバーとしていらしてます。ニシタチの店をはじめ多くの事業を手がけられている39歳の若き経営者です。よろしくお願ひ致します。

さて家内の葬儀の後 大勢の方に「夫婦でこれからどう生きていこうかと話し合いました」とのお言葉をいただきました。私自身はこれからどうすることも出来ませんが、皆さんは明るく元気に劳わり合って生きていかれることを祈っています。

### 幹事報告

山崎栄一郎幹事



・エコキャップのお知らせ。

今回 7,095個

累計 118,250個

### 出席委員会報告

重松芳文委員長

#### 出席状況

本日状況	
会員数	(37) 40名
本日欠席者数	11名
本日出席者数	29名
出席率	78.38%

前々回状況	
会員数	(37) 40名
ホームクラブ出席者数	31名
マークアップ数	0名
修正出席者数	31名
修正出席率	83.78%

ニコニコ BOX 1件 1,000円  
累計 172,956円

募金箱 5,837円  
累計 142,847円

### 委員会報告

#### 親睦委員会より

#### ニコニコBOX

小園隆司会員

5月19日還暦60歳を迎えました。また、昨日祝賀会をして頂き、ありがとうございました。今後とも宜しくお願いします。

#### その他

### 地区研修・協議会に出席して 戸高勝利会員



22日、指宿市民会館にて地区研修・協議会がありました。南ロータリーから14名の会員が参加し、熱心に勉強しました。

内容は2730地区ガバナーの地区テーマが「ロータリーを楽しもう！」です。各クラブで企画・運営し、その成果を楽しもうとの意味です。

昼からの分科会で

・CLP（クラブリーダーシッププラン）を積極的に

Rotary

ロータリー情報

### 公共イメージ補助金 (Public Image Grants)

公共イメージ補助金は、あなたの地域社会でロータリーを広報し、あなたのプロジェクトを広く地域に知ってもらうのに役立つ。この補助金は、テレビ、ラジオ、印刷媒体、屋外看板、PSAを使った広報に利用でき、プロジェクトが完了した後で経費が地区に支払われる。単一地区でも、複数の地区でも、申請できる。

取り入れましょうとの要望がありました。その際、細則を変える必要がある様です。

- ・会員増強の時は、職業分類を見直すのが基本だと話もありました。

その他詳しくはクラブ協議会で話があると思います。とりあえず報告とします。

## 地区研修・協議会の思い出

次期地区研修リーダー  
大迫三郎会員



南の国指宿での地区研修・協議会は大重ガバナーの船出セレモニーとして大変立派に行われました。私はガバナー補佐、部門長、役員会、講評と、増強セミナー講評、研修本会議講評、財務委員会の開会挨拶、米山委員会の講評と忙しい経験でした。

エピソードとしては、流石の私もちょっと体調を悪くし、電車の中から秦パストガバナーに電話したところ、日曜にも拘らず病院の手配を戴き、夜の7時30分着南駅のプラットホームに秦先生がわざわざ来られて電車から私が降りるのを待ち構えておられ、病院まで送って戴いただけでなく、最後まで立ち合いを戴き無事処置を戴き感謝の他ありません。

ロータリアンの有り難さを改めて感じることができました。

## 本日のプログラム 歴代会長卓話

### 会長経験者卓話

小園隆司会員



今回会長経験者卓話の機会ありがとうございます。

私もこれまでいろいろ方にお世話になりましたが、今月19日に還暦を迎えました。

これからも宜しくお願ひします。

さて今回は私なりのロータリー感をお話ししたいと思います。ロータリーという組織は自分で行動し、その行動した事に自分で責任を取るのがロータリーだと思います。いろんな場面において責任は自分で背負うのが当然です。しかしそこに不手際あったとしても、他人が指摘するわけもなく、批評を受けることもありません。つまり活動をするかしないかは

自分で判断していくのがロータリークラブの骨幹の様な気がします。組織の中でどこでも起こり得るお話をご紹介して今回の卓話に代えさせて頂きます。

100匹のアリを枠の中に閉じ込めて観察していると、よく働くアリは20匹ぐらいで、60匹ぐらいのアリはその20匹について働いている。残りの20匹は全く働かない。働かないアリを全部取ってしまったらよく働くアリ集団の80匹ができるかと思って、全く働かない20匹のアリを枠から出してみると、すると、よく働くアリは20匹から16匹になり、その16匹について働くアリが48匹で、全然働くアリが16匹になった。じゃ、よく働くアリの16匹を取ってしまったらどうなるか試してみたら、ついて回って働いていたアリの中から12匹のアリがよく働くようになり、その12匹のアリについて回るアリが40匹、全然働くアリが12匹出てきました。どういうことか。つまり、集団で働くと2割の者がよく働き、6割がそれにつれて働き、働くアリが2割いる、ということになる。

サラリーマン時代に部下ができたとき、この話をした。ある社会学者の研究の成果だと言った。部下から「あいつは働く」などと同僚に対して文句が出てくることがよくある。自分はよく働くというアピールなのだが、こじれると給与の査定問題になるので放っておけない不満のひとつだ。そこで、このアリの話をして、働くアリを辞めさせても、また働くアリが出てくるのが会社だ。逆に言えば、働くアリの評価は働くアリがいるから高い評価になる。だから、働くアリは働くアリがいるからはじめて存在できる。じゃ、何のために働くアリがいるかといえば、働くアリは別な考え方や経験を持つことになり、会社が行き詰ったときにはウルトラCの行動に出る場合が多い。それなりに組織には必要な存在だともっともらしい説得をしたものだ。20数年前に日経の春秋に書かれていたという記憶があるのだが、いったいどんな社会学者がどういう根拠で言ったのかずっと探っていた。最近それが分かった。

以上です。ありがとうございました。